花開く養老渓谷の日

加茂里山通信
令和4年 春号
発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貫造

養老渓谷を元気に！

「養老渓谷の日2022」を、4月2日(土)・3日(日)の2日間、養老渓谷駅前にて開催いたしました。（主催 市原市観光協会 養老渓谷の日は4月6日に記念日登録されておりますが、イベントは4月1日の土日に開催しております。新型コロナウイルスの影響で元気がなかった養老渓谷を元気に。そして、いらして下さったお客様を少しでも笑顔に。との想いで今年は実施いたしました。

10時ちょうどになると、渓谷駅に和太鼓の大きな音が響き渡ります。「江粋連」さんのオープニングアクトでイベントがスタート。「こころ舞踊団ぷっちんべりりん」さんにバトンが渡り、子供達のパフォーマンスで駅前に笑顔の輪が広がります。

続いて登場するのが「ざるかめ」さん。今年のメイン企画のひとつで、市原市出身のヴァイオリニスト亀井さんと、チェリスト村岡さんによる女性ユニットです。ヴァイオリンとチェロで奏でる「鬼滅の刃」の楽曲に、お子様達も興味津々といった感じで聞き入っていました。ご当地ソングの「ハッピーいちはら」の演奏もあり、亀井さんは「初の野外ライブ、極寒だったけど綺麗な空気と景色の中で演奏するのは最高に気持ちよかったです。なにより地元で演奏する機会が嬉しかったです。」とコメントして下さいました。

初日のトリを飾るのは、養老渓谷駅で本当にプロレスをやれるのか？最初は半信半疑だった私も、11時から設営が始まり、お昼過ぎには完成されたリングを目の当たりにしてやっと実感が湧きました。選手たちを乗せた列車が駅に到着。上総牛久駅からスタートした列車内プロレス、60分を超える激闘の末に、いちはら観光PR特使でもある大和ヒロシ選手が凱旋勝利を果たし、観客も大盛り上がりしました。その後の2試合では、大物レスラー秋山準選手や、浪速のロッキー赤井英和さんの娘さん赤井沙希さんも登場し、声が出せない分、大きな拍手を浴びていました。

2日目はあいにくの雨模様となってしまいましたが、出演者のみなさんの強い気持ちがあり、午後からは雨も止み、トリではいちはらプロモーション大使の山内鈴蘭さんのトークショーで、市原の魅力を観客のみなさんに発信していただきました。

地元を盛り上げたい！

2日間のイベントを通して最も感じたことは「地元を盛り上げたい！」という参加者みなさんの強い想いでした。それはステージ出演者だけでなく、飲食ブースやキャンドルワークショップの出店者、抽選会を手伝ってくれたスタッフ、協賛いただいた皆様から、ひしひしと感じることができました。

養老渓谷を元気に！お客様を笑顔に！みんなの想いが、少しでも届いていたら嬉しいです。ご来場いただいた皆様、遠くからでも応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

（足水里山通信員）

リングは列車 観客はリング内に

プロレスラーでいちはら観光PR特使の大和ヒロシの縁から、プロレス団体DDTにより、小湊鉄道内で列車プロレスが開催された。14選手が参戦する「エニウェアフォール時間差入場バトルロイヤル」は馬立駅から始まり、通常のプロレスルール、どこでもフォールできるエニウェアフォール、さらに駅で降車して出発時刻までに戻らなければ失格の「アウト・オブ・トレイン」ルールを採用。どの駅でどの選手が入場するか、どこでどう失格になるか、様々な試合展開にワクワクドキドキが止まらない面白さで観客のボルテージも最高潮に盛り上がる。途中、降車して戻れない選手が何名もいたり、上総大久保駅で待機していた伊藤聞太選手が寝てしまい乗車できなかったり、養老渓谷駅で降車できなかった2選手が中野へ出発し失格になるハプニングもあった。

そして養老渓谷駅前特設リングで勝ち残りの4選手により、決勝の闘いが行われ、「大和ヒロシ」が必殺技のフィッシャーマンズスープレックスで見事に優勝を飾った。その後、大物レスラー秋山準選手参戦試合含む特別試合2試合も行われ、列車プロレス観戦者32名と駅前に集まった約200名の観客が熱戦を見守った。

観戦のお客様は皆一様に「すごく楽しく貴重なものが見られた。毎年恒例にして欲しい」と口々にして満足げな笑みを浮かべていた。

（河部里山通信員）

加茂学園は今

ウォーターバルーンアート

12月22火（水）「いちはらアートミックス」連携事業 ドローンを使った未来型アートイベント「ウォーターバルーンアート」が本校グラウンドで開催されました。

大型モニターを使って、ドローンが上空から撮影した映像を観たり、ドローンの将来的な活用方法の説明を聞いたりしました。また、ドローンが空中からインクの入った風船を次々に落とし、地面に置いてあるキャンバスに絵を描きました。どんな作品が仕上がるのか楽しみに待つ子供たちの姿が印象的でした。完成した2つの作品「オッサくん」と「太陽」は体育館に展示してあります。

9年生を送る会開催

3月4日（金）に9年生を送る会を開催しました。前期ブロックの生徒たちは9年生が前期ブロックだった頃の思い出を劇にして発表しました。学園祭のときは自分のセリフや動きを覚えるが精いっぱいだった子供たちも「この小道具をつくりたい」「こんな動きを付け足したい」と主体的に取り組むようになりました。

中期ブロックの生徒たちは9年生にアンケートを行って、それをもとに今年度の思い出を劇にして発表しました。とても愉快で素晴らしい演技をすることができ、9年生を楽しませることができました。

8年生の生徒たちはDJスタイルでクイズ形式にして9年生へのインタビューを交えた楽しい発表を行いました。

9年生からは「明るくかわいい発表をありがとうございました。とても明るい気持ちになりました。「発表ありがとうございました。本当に楽しい思い出になりました。」「とても面白い発表ありがとうございました。とっても笑いました。劇のクオリティが高すぎて驚きました。これからも頑張ってね。応援しています。」とそれぞれのブロックの生徒たちへ感謝の言葉を送りました。

（佐々木里山通信員）

市原商工会議所ニュース

おかげさまで創立150周年

市原商工会議所は昭和47年4月に創立し、今年で50周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに会員事業所をはじめ、千葉県、市原市や関係機関など多くの皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

市原商工会議所は昭和35年8月に五井町商工会、南総町商工会が設立されたのが始まりです。その翌年の8月に市原町商工会、姉崎町商工会、加茂村商工会が設立。その後昭和38年5月に市原・五井・姉崎・三和・市津の5町が合併し市原市が発足し、昭和39年4月1日に市原市商工会が創立されました。

昭和42年には南総町商工会と加茂村商工会が解散し市原市商工会に編入され、現在に近い形の組織となりました。

旧商工会館 五井5108

昭和47年4月1日に、千葉県で14番目の商工会議所として市原商工会議所が創立。初代会頭には新藤栄一氏が就任。発足当時の会員数は1，715事業所でした。

同年6月には市原・五井・姉崎・三和・市津・南総・加茂地区それぞれで支部が結成され、地域商業の活性化に取り組んでまいりました。

現在の商工会館 昭和56年9月に落成）

創立以来、地域の総合経済団体であるとともに日本商工会議所の一員として、地区内商工業の総合的な発展をめざし活動を続け、会員数は2，400を超えるまでになりました。

これからも会員の皆様を始め、行政並びに関係機関とともに、50年先を見据えた長期展望のもと、地域経済活性化に向けて邁進いたします。

（霜崎里山通信員）

編集後記

・春の到来の待ち遠しい今年の冬でした。岩つつじの開花が今年は例年より遅く、タケノコの出も遅れています。冬の寒さが厳しかった分、桜が見事に咲いています。

・現代はネットワークを通じて情報が瞬時に配信され、どこで何が起きているのかを知ることができます。多くの人が真実を知ることが極めて大事です。日々刻々伝えられるウクライナの情勢は悲惨を極めています。一日でも早く戦闘が収束し、罪のない人々が、特に子供たちの命が一つでも失われないことを切に願います。

・コロナの終息もまだ先が見えませんが、「養老渓谷の日」では若い世代がエネルギッシュなパフォーマンスを披露してくれました。2日目に小雨に降られてもそれは変わらず、水を吸って重くなった大きな旗が霧状の水を飛ばしながら大きく振られました。そして「こころ舞踊団 ぷっちんべりんず」の「みんなおなじ空の下 みんな生きている みんなつながっている」というメッセージが力強く発せられました。

心意気とメッセージは確実に伝わったと思います。

（征矢里山通信員）

次回は7月20日発行予定です。

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。
メールでも受け付けます。
記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。
市原商工会議所
0436（22）4305 担当 藤田
Eメール 1sapo@i-cci.or.jp

房総・養老渓谷の地酒お土産は
養老渓谷駅前
角屋商店
養老渓谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL0436-96-1108
FAX0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL0436-96-0482
FAX0436-96-1293

皆様と共に歩む観光

さわやかな季節にバス釣り！
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

成人式おめでとう！

令和４年、加茂地区の成人式が１月９日（日）に開催されました。

例年ですと家族の参加も見られ、温かい雰囲気の式典でしたが、コロナの感染予防として、会場には新成人の皆さんと開催役員の皆さん、恩師の方々、来賓のみの入場というスタイルでした。

市原市の新成人は全体が２，６５７人。加茂地区は対象者３１人。うち、出席者が２７名という、こじんまりとした開催になっています。

例年の事ではありますが、私語もなくスマホをいじる人もなく、会場全体が真摯に式典に臨む姿勢に、加茂地区の新成人の皆さんの大人への自覚が感じられます。

コロナ対策として、祝辞も主催者と市長のメッセージだけとなり、恩師の方や来賓もひとことだけのメッセージで、新成人の皆さんの門出をお祝いすることになりました。

新成人の代表謝辞で、「希望を持って大学に入学したがオンライン授業が続いています。」という一節に、彼らがコロナとともに過ごしてきた日々が想像されました。

式典終了後は会場の外で待ち構えていた家族の皆さんも含めての撮影会と懇談となり、コロナ対策で懇親会も設営できないという現実も伺えました。

新成人の中には　陸上自衛隊の制服に身を包んだ方もおられ、日々厳しい訓練に明け暮れるお話も聞けましたし、医師を目指して医大に進んだ女性などもいて、少人数の中できめ細やかな教育を進めている加茂学園の成果も見えるようでした。

加茂で生まれ育ち、新成人として歩みだした彼らに、素晴らしい未来が開かれることを願っています。

「頑張れ、加茂の若者たち」とエールを送らせていただきます。

（大曽根Ｔ里山通信員）

「高滝湖コーポレートオフィス」オープン

養老の高滝郵便局の手前の鉄筋２階建ての建物は長く市の文化財の倉庫として使われてきました。解体されるという計画もあったのですが、市原市観光協会を母体とする市原ＤＭＯが高滝湖周辺を中心とした市南部地域における企業の連携拠点として「高滝湖コーポレートオフィス」として開設しました。

内外装の刷新で活用できる素敵なオフィスになりました。さらなる企業誘致の拡大、観光産業の連携による交流人口の拡大など、地域一体での活性化に取り組む予定です。

倉庫からは何も生まれませんが、建物に人が入り活動することで様々な可能性が見えてきます。高滝地区の新しい拠点としてその活躍が注目されます。

（従矢里山通信員）

明日の加茂のために　大久保駅界隈物語

トロッコ列車に乗った時に月崎の能田つぼりを過ぎて大久保のトンネルを抜けてから、両脇が竹に覆われて視界が阻まれるところが気になっていました。大久保駅近くの竹刈りの話が来た時にその竹のことを思い出しました。２月２６日に里山連合、小湊鉄道、市役所の関係者など６０名以上のボランティアで、大久保駅から月崎駅方面に向けての竹刈りを行いました。いつものカレーの昼食をはさみ、午前午後で相当量の竹を刈りました。

しかしこの日の作業はハイライトで、実はこの１週間前から国本一心会を中心とした地元の人たちで準備を行い、この日の後さらに３週間をかけて作業を行って、下の写真のようにきれいになりました。

後日、一心会の兼岡敏夫さんにお話を伺うことができました。

（待ち合わせ場所の大久保駅には先に来て待っていてくれお茶もお茶菓子も用意してくれていました。その心使いに人柄がしのばれました）

先ずはみんなが作業するための入口の確保をし、刈った竹の焼却処分も風などに気を付け丁寧にやったとのこと。

また、今ある駅の反対側の大きな銀杏の木も前は竹藪の中にあったのを、１回目のアートミックスの前にみんなで竹刈りをしてきれいにし、銀杏もそれからどんどん大きくなったとのことでした。

駅から見える田んぼも昔は上のほうまで小田掛けが並べて、見事だったそうです。この界隈をきれいにするのも、この地に世話になったことへの感謝の気持ちだと言っていました。兼岡さんはこの３月で８８才になるとのことでしたが、いまだに医者にかかったことがないそうで、声も大きくとても元気です。

みんなの思いが込められた整備で、おそらく来年の春には、大久保駅界隈が咲き誇る菜の花と桜に満たされることでしょう。

明日の加茂のために　西川界隈物語

甌穴（おうけつ）のある西川の少し上流のほうで昨年の大雨によると思われるがけ崩れで落ちた岩で水路がふさがれ、池状態になってしまった箇所がありました。ここは川の中を歩かないと先に進めないため、せめて長靴程度で歩ける深さに戻さないといけないということで、２月２７日に加茂活性化推進機構（加茂活性化ネットワーク）のメンバーで作業を行いました。重い発電機と掘削機を長い距離を歩いて運び、軟岩を壊していきました。幸いなことにせき止められた場所の先がすぐに水の落ちていく急流になっていたので、破壊して手で取り除く作業と急流に任せて流してしまう作業をくりかえしました。掘削機はひとつだけだったのであとはつるはしや鍬を使っての全くの手作業で岩を壊し取り除いていきました。

後日確認したところ、まだ前の状態には戻っていないとのことで、第２弾の作業が必要のようです。

以前に川沿いに生えていた竹を何回もの作業で取り除き、もうタケノコも出てこなくなったところに昨年紅葉を植えました。今年はアジサイを植えようということで３月２７日に作業を行いました。（ここは甌穴の見える場所からは下流にあり、砂防ダムの近くになります。砂防ダムも初めて見ましたが、高さが７～８ｍあり、養老川の支流のまた支流としてはなかなかのものでした。）

メンバーの風戸さんが山の中から掘り出してきたというアジサイの苗木は相当数に上り、掘って移動する作業は大変なものだったと思われます。根はむき出しで土などついていないものの、枝も落としてあるので生命力の強いアジサイは雨の多くなるこの時期に植えれば根付くと思われます。

ここもまた一斉に開花する光景が楽しみです。

（従矢里山通信員）

ようこそ加茂の里山へ

三和沙友里さん

加茂地区の田淵町会に二人の若い女性が移住した。服を売らないアパレルブランドとして古着を扱うｅｎｅｒｇｙ ｃｌｏｓｅｔ代表の三和沙友里さん。入場料と自分の持っている洋服を持参することで、その場の洋服と交換できるという取り組みを都内でおこなう一方で、古着をリメイクするアトリエ兼工房として田淵の物件を活用している。今回はそんな三和さんにお話を伺った。

ものが循環していないことの違和感

開毛舎　小深山（以下Ｋと示す）：古着のリメイクやものを捨てない三和さんの取り組みは今の時代にあっているように感じました。以前からそういう環境問題に興味があったんですか？

三和さん（以下Ｍと示す）：もともとまちづくりに興味がありました。ものが循環していないことへの違和感があって。フードロスの問題もそうだし、輸送がすごい多くて、地産地消ってあまりされてないんですよね。それを言語化したり、体現できないもどかしさを学生の頃から感じたりしていました。一つの手段として、街の仕組みが変われば、ものをたくさん運んだりすることが減ったりするんじゃないかって商店街と関わってたんですよね。

Ｋ：そうだったんですね。確かに、地産地消って言葉があるくらいなので、意外と地元で採れたものって地元で消費されてないのかもしれないですね。

Ｍ：空き家の問題も同じように興味がありました。使われてない家があるのに、どんどん新しい家が建てられているのにも違和感があって。この活動をしていると、三和さんたちの年代って環境への免疫が強いよねってよく言われます。子どものときに大きい震災を経験してたり、教科書にも環境に関することが載っていたりして、そういう影響もあったのかなって。

Ｋ：同じく循環ですよね。

Ｍ：服も建物も使われていないものを放置するのに違和感があったので、空き家に入ることは私にとっては普通なことでした。残っているものは使える形であれば使うのが普通だなと思っていたので、空き家に入ることにハードルは全然なかったです。

移住してみてから感じたこと

Ｋ：田淵町会に来てから数ヶ月経ちますが、住んでみてどうですか？

Ｍ：近所の人がとても気にかけてくれます。家の入り口の垣根や植栽も綺麗にしてくれたり、排水の土木工事がおこなわれていたり、とてもスッキリしました。ほんとに感謝です。この前も、有一さんがベッド持ってくるからって言ってくれたんですけど、自分で作って持ってきてくれたんですよ。すごいよく眠れてます。

Ｋ：都会とは違ったコミュニケーションですよね。

Ｍ：この前も組でわたしの歓迎会を開いてくれたんですよ。みんなで一品持ち寄って公民館に集まって。わたし女一人でいきました（笑）みんなお酒持ってきてくれて楽しかったです。

Ｋ：すごいですね。その中に入っていったんですね。

Ｍ：父も一緒に来たんですけど、遅くまでずっとお酒飲んで楽しんでました。こっちの自然がすごい好きって言ってて、よく有一さんと山仕事をしてるんです。こんなに父が来ると思わなかったです。

Ｋ：お父さんもこっちの地域を気に入ってくれてよかったです。

Ｍ：近所の人はみんな野菜を作ってて、採れた野菜をくれるんですよ。別に野菜くらいって言ってくれるんですけど、わたしからしたらスーパーの値段が染み付いてるので、何かお返ししないかなっていつも考えてます。この町会の人たちはすごい地域の掃除もしているので綺麗なんですよね。

Ｋ：夏場になると草刈りに出てってみんなから言われるかもですね。

Ｍ：父がきっと出てくれると思います（笑）

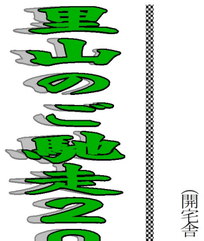
（開毛舎　高橋洋介）

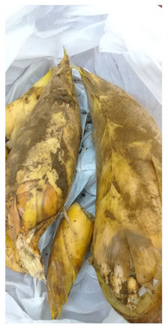
里山のご馳走2022

2月下旬から出始めた『ふきのとう』は、3月の気温の上昇と共にあちこちから顔を出します。まずは天ぷら、焼きみそ、練り味噌、佃煮。ほろ苦い春の香りを楽しみます。

3月中旬からはタケノコが顔を出します。最近ではイノシシの被害甚大で先にタケノコを食べられてしまうそうです。家のすぐ近くでも草の中をガサゴソ走ったり、大きなイノシシは悠々と前を横切ることもあります。

お彼岸には草団子の準備です。まずは米をといで水けをきり、乾かします（二日くらい）よく乾いた米を粉にひく。あんこの準備、小豆を柔らかく煮てざるでこし皮を除きます。さらしの袋で絞ったものを厚手の鍋に入れ砂糖を加え練り上げます（こしあん）。ヨモギはまだ小さいので日当たりの良い場所を探して収穫します。ごみを除いてよく洗い、重曹を入れて茹でます。よく茹でたら水に取り冷まして絞る。当日の作業　大きな飯台に米の粉を入れお湯を加えながらこねる。蒸し器にふかし布を敷いてこねた生地を一握りずつ入れる。蓋をしてふかす。蒸しあがる5分前くらいにヨモギをのせて温める。餅つき機でこねる。（量が少ない場合はすり鉢でこねる）滑らかにつきあがったら、一度水に付けて冷やす。もう一度こねる。砂糖を加える。滑らかになったら出来上がり。あとはみんなでお団子に丸める。出来上がったお団子を持ち、お墓参りに行きました。





加茂菜漬けのおいしさが大分広まってきたようで、加茂菜漬けはまだか？の催促が来るようになりました。でも加茂菜もその年の天候で出来不出来があるので「幻の加茂菜漬け」と言われています。（地元の商店やクオードの森売店などで買うことができます）

4月になればごみ、ワラビが出始めます。イノシシやキョンに負けないように、マムシには十分注意して、里山の恵みに感謝して日々暮らしていきたいものです。

（大曽根Ｒ里山通信員）

自然は何も変わらない

昨年より寒いと思っていた。時期はずれになるだろうとも思っていた。しかし、自然の動きは止まらない。万田野ファームの水仙達も、順調に花咲いている。一緒に水仙の球根を植え続ける作業をしている牛久ＭＢＣ（ミニバスケットチーム）の関係者の皆さんにも、しっかり報告しなければと思う。

田畑も減っている状況でも、そこに生物は生息している。かえる達の大合唱が始まりつつある。近所の子供たちも網を持って走り回る。人のみ行動、動きが変わっていく。すべてを抑制せず、個々に出来ることをはじめ活動するようになるのは、いつになるのだろう。里山は、いつでも準備オーケーです。

（矢代里山通信員）

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本　　社　市原市万田野 26　TEL 0436(96)1311
市原支店　市原市惣社1－1－22　TEL 0436(24)0511
南総支店　市原市牛久450－1　TEL 0436(50)0111
URL　http://www.sugita-group.com/